

第27回 男体山(標高2,486m)

第4支部(株)石倉塗料店

石倉みゆき

平成18年6月4日 曇りのち晴れ

今回のハイキング同好会は、日本百名山のひとつ、奥日光男体山をめざしました。

午前6時20分浅草発、8時24分東武日光着の東武線快速に乗り、日光駅から、専用マイクロバスで、標高1,785メートル地点にある男体山北面の登山口、志津乗越へ向かいました。電車組は、磯部幹事、乾幹事のお二人と、第四支部編成、お笑い系の海老名さんと小川さん、シリアス系の秦さんとわたしの6人で、志津乗越の登山口付近で、車で来られたミスター&ミセス原さんと落ちあいましたが、今回の参加はミセス原さんのみで、ミスター原さんは待機でしたので、参加者7名でした。

軽いストレッチをしてから、午前9時30分に、登頂開始。わたしは、今回で3回目の参加ですが、前2回は、比較的なだらかなコースでしたので、今回のように、厳しそうなコースは、高校(!)の遠足以来。体力が続くものか不安がありました。(でも、せっかくだから、百名山を登ってみたい!)というミーハー的好奇心で参加をしました。登山口の入口から、すでに結構な上り坂でしたが、(平坦な道が交互にくるにちがいない…)と確信していました。(その確信は、すぐに打ち砕かれましたが。)山道を少し登っていくと、砂利の坂がしばらくあり、その先からは山林の中を細い上り坂がずーっと続きました。天候は、朝の曇り空が初夏の明るい陽気になり、爽やかでした。そんな陽気に助けられながら、てくてく登って行きましたが、しばらくは、息がフーフー、ゼイゼイ。1時間くらい行くと、登りはじめの登山口まで見晴らせる斜面があり、少し気持が持ちなおしました。途中ほんの数箇所、涼しい風が谷間から吹き抜け、救われる場面もありましたが、基本は汗を大量にかきながらの登り詰め。「健康のため」と一心に念じ、すでに下りてくるハイカーに「あと、どの位でしょうか?」と、希望の光を求めて尋ね、「あともう少しですよ」という答えを心の支えとして、ひたすら上り、登り、昇りました。山道がせまいので、脇に寄りあいながら、他のハイカーを追い越したり、追い越されたり。いつしかみんな寡黙になった頃、少しずつ、周りの木々が低くなり、遠くに山頂の小屋を見つけた時、元気がわずかに復活しました。そして、ついに11時40分、山頂に到着。(やったあ!)所要時間、2時間10分。乾幹事曰く、「通常よりも早いペース」でした。

山頂の巨大な岩の上で、涼しい風を受け、達成感を(ひし)と感じながら、みんな記念写真を撮りました。山頂はとても広く、あちこちで休憩をしているハイカーがいましたが、私たち一行は、中禅寺湖を見下ろす一角で休憩をとり、磯部

幹事がお湯を沸かして下さり、大根田さん提供のスモークも美味しくいただきました。山頂から見渡すと、遠くに白根山をはじめとする山々が連なり、眼下の中禅寺湖は、ここからも大きく見えました。中禅寺湖の西側には小さな西ノ湖、そして北側には戦場ヶ原が望め、雄大な風景でした。雲のかかる山も周りには多くありましたが、男体山は好天に恵まれ、ラッキーでした。

男体山は、782年に勝道上人開山とあり、山頂には、山岳信仰の対象で、日光の氏神様である日光二荒山(ふたらさん)神社の奥宮がありました。その奥宮の鳥居の前で、下山をする前に再びみんなで記念撮影をしました。そして、午後12時40分頃下山を開始。「無事登頂!!」と安堵していたのも束の間、行きは易しいコースの方だった、ということで、帰りは南面の急坂を標高1,300メートル地点の二荒山神社中宮まで下る難易度アップのコースでした。下りはじめは、休火山のためなのか赤い砂利道で、足をとられながらすべり降り、それから、段差のある階段をヨイショ、ヨイショとしばらく降り、その後は岩場の下りが、ずうーっと、これでもか、というほど続けました。景色を楽しむ余裕もなく、ころばないように、ごつごつしている岩のどこを踏むかに必死に集中しながら降りました。(このコースの登りは無理!)と思いつつ、上ってくる猛者風ハイカーには感嘆し、おそらく男体山をよく知らず、このコースに迷い込んでしまった風なハイカーには、深い同情を寄せました。1時間ほど歩き続けて、(もう限界)と思ってから、さらに小1時間、足場がだんだん岩から土になり5合目付近を過ぎたころ、ひと休みになりました。そこからは、霧にかすむ中禅寺湖が美しく見えました。その休憩の後には、俊足組はぐんぐん先に下っていきました。わたしの方は、足がまさに‘棒’で、ガクンガクンと動く感じでした。さらに30分ほど下り、午後3時すぎ、朱色の社が視界に入った時には、「ほっ」としました。山を歩きながら、原さんがいろいろな花の芽を教えて下さり、花の季節にはまだ時期が早いことを残念がられていましたが、神社まで下りてくると、しゃくなげやレンゲツツジが咲いていて、心が和みました。境内でお参りをすませ、中禅寺湖北側にある神社の入口まで石段を降り、ミセスをお迎えにいらしたミスター原さんが用意して下さったビールですっかり休憩されている俊足組に合流し、わたしもジュースをいただき、一息つきました。そして、目の前に広がる中禅寺湖の湖面を眺めながら、心地良い脱力感にひたりました。幹事のお二人は体力的に全く余裕のご様子でしたが、他の方々は多少お疲れだったのではないのでしょうか。それでも、お二人の幹事からは、「みんな根性があつた」と感心していただきましたし、(極度に苦しい時以外は)笑いのたえない、とても楽しいグループでした。電車組は、そこから路線バスで日光駅へもどり、この時期には珍しく特急が満席だったということで、午後4時58分日光発、7時35分浅草着の東武線快速で、帰ってまいりました。

今回の男体山は、今までわたしが参加させていただいた同好会のコースの中で

は、やはり一番キツイコースでした。過去二回は、‘いい運動’でしたが、今回は、翌日から2日間は、階段を降りるのも苦痛なほど足が筋肉痛になりました。ハイキング中や下山直後は、(もう、勘弁)と思っていました。それにもかかわらず、帰ってきてから、山頂からの美しい眺めや、霧で薄ぼんやりとした山林や湖を思い起こすと、何となく心が癒されます。

文末に、ハイキング同好会の実態につきまして、同好会新参者で超初心者ハイカーの見聞と推測に基づく参考資料と付記いたします。

- ① ルート難易度： 易：30%中：40%やや難：30%
- ② 晴天率： 99%
- ③ ハイキングの目的(推定)： 健康増進：20% 親睦：30% 飲酒：50%
- ④ 参加者の性格： 真面目：20% 優しい：30% 騒がしい：50%
- ⑤ 万一の場合、幹事が救命してくれる可能性：50%(たぶん…。)
- ⑥ ハイキング中の話題の構成： (ア)ハイキングの意義：10%
(イ)お酒が足りないという不満：30%
(ウ)下ネタ(比較のお上品な)：50%
(エ)参加者・欠席者の評価：10%
(評価の内、U氏に関連するもの：98.5%)

※ちなみに、コースの難易度もU氏「参加可能」、「とても無理」の境界線によく

語られています。

- ⑦ 幹事から何の脈絡もなく持ち上げられた後、
同好会報告書をお願いされる可能性：90%
- ⑧ 帰りの電車(及び路線バス)内での宴会実施率：100%
(注)宴会はとても楽しく、参加者のみなさんは、陽気でにぎやかですので、公共の場における周囲の冷たい視線やおびえた様子には、すぐに慣れます。

このように、ハイキング同好会には、多方面から心身を鍛え、世俗を忘れ、自然(野生の本能?)に身をまかせることのできる、何物にも代えがたい価値があるように思います。

以上